

第27回 実存主義(2)

- 1 B 日常的な素朴な意識経験に反省を加え、純粋な意識体験にたちかえり、事実を事実として記述することにおいてその本質を究明しようとする学問の立場を何というか。 現象学
- 2 B 現象学の学問的立場を確立し、現代実存主義哲学に大きな影響をあたえたドイツの哲学者は誰か。 フッサール
- 3 A 現代人は日常性に埋没して非本来的自己に頹落していると指摘し、自らが死にかかわる存在であることを自覚することにおいて本来的自己を回復できると説いたドイツの実存哲学者は誰か。 ハイデッガー
- 4 B 人間の日常的なあり方の分析によって、本来的自己の回復を求めたハイデッガーの名著を何というか。 『存在と時間』
- 5 B 「わたしは、現にいまここにある」という、人間のもっとも原初的なあり方をハイデッガーは何とよんだか。 現存在
- 6 C 他の存在や他人とのかかわりのなかで生きているという、人間の根本的なあり方をハイデッガーは何とよんだか。 世界内存在
- 7 B 主体性を喪失し、日常性のなかに埋没して平均的・画一的な生き方に陥っている人間をハイデッガーは何とよんだか。 「ひと(ダス=マン)」
- 8 A 人間はいつか死ななければならない運命を背負っているということで、このことを自覚することによって本来的自己へと回帰する人間のあり方を何というか。 死への存在
- 9 C 日常性のなかで非本来的自己に甘んじていることに対し、本来的自己へと立ち返ることをよびかける内面の声をハイデッガーは何とよんだか。 良心のよび声
- 10 C 日常態においては世間一般の人びとの生き方への気づかいであり、良心のよび声に対しては本来的自己への気づかいである、現存在のあり方をしめすハイデッガーの基本概念を何というか。 関心(ゾルゲ)
- 11 A ナチスによるユダヤ人妻との離婚強要を退け、敢然として生きぬく体験のなかで、理性と愛と実存の問題を問いつづけたドイツの精神医学者・哲学者は誰か。 ヤスパース
- 12 B 「実存は理性によつてのみ明白になる」という立場から書かれたヤスパースの著作を何というか。 『理性と実存』
- 13 A 人間として避けることも超えることもできない状況をヤスパースは何とよんだか。 限界状況
- 14 A ヤスパースがいう、人間にとって不可避の状況の具体的な例を四つ記せ。 死・苦・争い・罪
- 15 B 人間が自己の有限性を自覚したとき触れる絶対者をヤスパースは何とよんだか。 超越者(包括者)
- 16 B 自己の有限性と超越者の存在を感じた人間が、相互に「愛しつづけたかう」という連帯意識において交わることをヤスパースは何とよんだか。 実存的交わり
- 17 C 人類の歴史において人間が個人を自覚し、精神的に目覚めた前500年ごろの時期をさして、ヤスパースは何とよんだか。 枢軸時代
- 18 A ナチス支配下のフランスにおけるレジスタンス運動のなかから、独自の实存哲学を構築していったフランスの実存主義哲学者は誰か。 サルトル
- 19 A 人間存在の分析を通して、人間の自由の根拠を探ろうとしたサルトルの著書を何というか。 『存在と無』
- 20 B 実存主義が人間の自由を求める思想であることを解説した、サルトルの実存主義思想の入門書を何というか。 『実存主義はヒューマニズムである』
- 21 C 自然や事物はそれ自身としてある存在という意味で即自存在とよばれるのに対して、人間は自己の存在を意識する存在という意味で何とよばれるか。 対自存在
- 22 A 性質や用途によってその本質を規定されている事物に対して、人間は自覚的に自己の本質を形成できる存在であることをしめすサルトルのことは何というか。 「実存は本質に先立つ」
- 23 C 誰にもかわってもらうことのできない、その人だけの独自の条件・環境をサルトルは何というか。 状況
- 24 C 状況は他者とのかかわりをふくみ、自己の自由は他者の生き方を拘束するがゆえに、サルトルが自由に必然的に付随していると考えた概念を何というか。 責任

- 25 C ハイデッガーが人間が自らの有限性や不完全性に気づくとき生じる気分といい、サルトルが誰にも依存・代替できないがゆえに、自由に付随するとした気分を何というか。 不安
- 26 A 状況に拘束される人間が、同時に状況を変革し、人類の運命に積極的にかかわっていく社会参加・状況参加をサルトルは何とよんだか。 アンガージュマン
- 27 A サルトルの良き伴侶であり協働者であった、フランスの女流作家・実存哲学者は誰か。 ボーヴォワール
- 28 B 「人は女に生まれない。女になるのだ」ということばではじまる、女性の自覚と自立をうったえたボーヴォワールの著作を何というか。 『第二の性』
- 29 C 存在と所有を区別し、他者を人格として尊重することを説いたフランスのキリスト教的実存主義者は誰か。 マルセル
- 30 B 真の実存主義とは、希望や意味をみいだせない現実を直視しながら生きていくことにほかならないと考えたフランスの作家・実存主義者は誰か。 カミュ
- 31 C 山頂に押し上げた岩が転げ落ち、再度それを押し上げるという永遠の作業を刑罰として課せられた人物に、現代人の姿をみたカミュの著書を何というか。 『シジフォスの神話』
- 32 C 人生は合理的に理解することはできず、意味も目的もない現実があるだけであるというカミュの思想の基本概念を何というか。 不条理